



NO.50
2010年7月2日
富士スピードウェイ株式会社

第1回 Eco Car Cup 2010 開催結果

富士スピードウェイは6月27日(日) ショートサーキット(全長 920m)において、市販ハイブリッドカーとそのオーナーが参加するハイブリッドカーモータースポーツイベント“第1回 Eco Car Cup”をリニューアル5周年企画の一環として開催しました。

本大会は、単なる燃費競争にとどまらず、ハイブリッドカーの走行性能を活かしつつもレースの要素を盛り込み、「より安全に」「より速く」「より低燃費で」運転技術の総合力を競う富士スピードウェイ初のイベントです。

6つのステージで構成し、ステージごとの獲得ポイントのトータルで順位を決めるシステムで、「速さ」を競うステージで高ポイントを獲得しても燃料消費量によりどんでん返しがあるため、「速さ」と「燃費」をどう両立させるかの戦略が勝負を分けます。(燃費はステージ3～6で評価)



主催：富士スピードウェイ株式会社
協賛：トヨタ自動車株式会社
エクソンモービル有限会社
株式会社エー・ピー・アール
後援：静岡県小山町
協力：ムーンクラフト株式会社
株式会社ホンダカーズ静岡

【タイムスケジュール】

	内容	備考
6:30～ 7:40	参加確認・車検	
7:50～ 8:30	ミーティング	ルール説明等
8:30～ 8:40	ステージ1(くじ引き)	練習走行とステージ2の出走順を決定
8:40～ 9:10	練習走行	ステージ1の結果で3組ごと10分間実施
9:40～10:20	ステージ2(タイムアタック)	同上
10:40～10:55	スペシャルステージ	SUPER TEC開催中のレーシングコースをパレードラン
11:00～	ステージ3(満タン給油)	場内給油所にて給油後、規定ルートで会場戻り
11:30～12:50	ステージ4(スプリントレース)	ステージ2のタイム順に3組ごとに20周走行
13:30～	ミーティング	ステージ5のルールを再確認
14:00～16:05	ステージ5(耐久レース)	ステージ2のタイム順に3組ごとに35分間走行
14:40～16:30	ステージ6(満タン給油)	場内給油所にて再給油
17:00～	表彰式	最終結果発表

【ステージごとの付与ポイント】

	ステージ						ステージ				
	1	2	4	5	6		1	2	4	5	6
1位	6	20	24	48	96	13位	3	8	12	24	48
2位	6	19	23	46	92	14位	3	7	11	22	44
3位	6	18	22	44	88	15位	3	6	10	20	40
4位	5	17	21	42	84	16位	2	5	9	18	36
5位	5	16	20	40	80	17位	2	4	8	16	32
6位	5	15	19	38	76	18位	2	4	7	14	28
7位	5	14	18	36	72	19位	2	3	6	12	24
8位	4	13	17	34	68	20位	1	3	5	10	20
9位	4	12	16	32	64	21位	1	2	4	8	16
10位	4	11	15	30	60	22位	1	2	3	6	12
11位	4	10	14	28	56	23位	1	1	2	4	8
12位	3	9	13	26	52	24位	1	1	1	2	4

ステージ3 (満タン給油) のポイントなし

減点項目

危険行為	極端な幅寄せや故意の衝突など	-30
警告旗無視	警告旗掲示中の追い越しなど	-15
警告信号無視	警告信号点灯中の追い越しなど	-15
ビット違反	ビットロード上でのスピード超過など	-10
周回数不足	規定周回数に達せずチェッカーを受ける	-16/周
パイロン接触	エスケープゾーンの走行(除:危険回避)	-30
時間超過	ステージ3と6で指定制限時間を超過した場合	-20
車両規定違反	度合いに応じ「失格」や「最下位」など	

【エントリーリスト】 各チーム2～3名で構成

クラス	ゼッケン	チーム	車両名	形式
プリウス-10	329	MGP	プリウス	NHW10
プリウス-20	7	TOM'S	みんなの党プリウス	NHW20
プリウス-20	18	チーム まったり	プリウス	NHW20
プリウス-20	46	コルベツト友の会	プリウス	NHW20
プリウス-20	108	イレバヤ	プリウス	NHW20
プリウス-20	810	Team Tama from PRIUSな日々SNS	プリウス	NHW20
プリウス-30	19	HVも学べる トヨタ東京自動車大学校	プリウス	ZVW30
プリウス-30	22	Team ECO TORA	プリウス	ZVW30
プリウス-30	23	チーム エコプリ！！	プリウス	ZVW30
プリウス-30	31	apr	aprプリウス	ZVW30
プリウス-30	555	おじさんず	プリウス	ZVW30
プリウス-30	556	ワクドキP	プリウス	ZVW30
プリウス-30	866	AQUA	プリウス	ZVW30
インサイト-ZE1	231	Team e-TEC	インサイト	ZE1
インサイト-ZE2	216	O.G.E.	インサイト	ZE2
プリウス EXP	2	team MBM/YURA STYLE	ユラプリ	NHW20
プリウス EXP	15	fifteen from PRIUSな日々SNS	20型プリウス competition tuned	NHW20
プリウス EXP	16	NMS & 奥ちゃん	ぶ～カー	ZVW30
プリウス EXP	17	ケースバック モータースポーツ	プリウス	ZVW30
インサイト EXP	81	MAXRACING	MAXRACING インサイト	ZE2
CR-Z EXP	1	GTNET	GTNET CR-Z	ZF1
CR-Z EXP	9	MAXRACING 制動屋 CR-Z	CR-Z	ZF1
CR-Z EXP	77	テクニカ ワーク 制動屋 セナルト	CR-Z	ZF1
CR-Z EXP	247	RE carsMM 春富-Z	CR-Z	ZF1

プリウス-10:初代/プリウス-20:2代目/プリウス-30:3代目 インサイト-ZE1:初代/インサイト-ZE2:2代目 EXP:改造クラス

大会には一般公募により全国から**24チーム**(トヨタプリウス17台、ホンダインサイト3台、ホンダCR-Z4台でノーマルクラス・EXPクラスあり/各チーム2～3名構成)がエントリーしました。

中にはプライベートで参加した、スーパーGTで活躍中の新田守男氏、嵯峨宏紀氏、折目遼氏といった現役ドライバーやドライビングレッスン等の講師を務めるベテランドライバーの黒澤琢也氏、レーシングカーデザイナー由良拓也氏などのプロフェッショナルから、サーキットを初めて走行する初心者まで参加者は様々で、通常のレースとは違い、どんな結果になるかも大変興味深いイベントでした。

1. 車検～ミーティング

早朝、車検を済ませた参加者は、歩きながらコースを丹念に確認後、ミーティングに出席し、主催者側からの安全確保を含めルール説明を熱心にヒアリング。最大ポイントを付与する満タン給油については、公平性を期すために数ヶ月前より練習してきた専任のスタンドマンが満タンとするルールや背後からスピードの速い車両が迫った場合には、抜かれる車両が走行側のウィンカーを表示するルールなどを徹底しました。

2. ステージ1 (くじ引きによる出走順位決定)

その後、ステージ1のくじ引きで決まった順番で3組に分かれて8台ずつが10分間の練習走行を実施。最初は戸惑いながらゆっくり走るドライバーも、周回を重ねるごとに要領を掴んだようにペースを上げていきました。



事務局の説明に聞き入る参加者



タイムアタックを待つチーム

3. ステージ2 (タイムアタック)

ステージ2では、ステージ1で決まった順番で3組に分かれて8台ずつが10分間のタイムアタックを実施しました。このステージは燃費に関係しないこともあり、各チームとも可能な限りのトップタイムを出そうと必死にハンドルを握っていました。

このステージで上位を占めたのはホンダCR-Z E P Xクラス勢とインサイト E P Xクラス、そしてレーシングドライバーのプリウスノーマルクラスでした。

ベストラップは41秒503をマークした、ホンダCR-Z E P Xクラスで参加の**テクニカワーク 制動屋 セナルト (#77)**チームでした。(参考：最下位は56秒475)



タイムアタックをする各チーム

4. スペシャルステージ (レーシングコースパレードラン)

タイムアタックを終えた参加者は、スーパー耐久第4戦が行われているレーシングコースに移動し、コースを約2周するパレードランを実施しました。スーパーGTなどで活躍中の**平手晃平選手**と全日本F3選手権で活躍中の**蒲生尚弥選手**が、トヨタのハイブリッドカー2台(プリウスプラグインHVとSAI)で先導し、参加者は観客から熱い声援を受けていました。



レーシングコースをパレードランする各チーム

5. ステージ3 (満タン給油)

その後、参加者は西ゲートにある給油所に規定ルートで移動し、満タン給油を実施。給油は1台ごとに行いましたが、その際、車両を揺らしてエア抜きするなどの行為をしないよう搭乗者は全員車外で待機。給油後は、再び指定のルートでショートサーキットへ移動しました。

燃費競技はこの満タン給油を機にスタートしており、5分間という制限時間を設けたショートサーキットへの移動も、各チーム燃費と時間を気にしながら慎重な走行を心がけていました。



場内の給油所で満タン給油する各チーム

6. ステージ4 (20周スプリントレース)

満タン給油を済ませた参加者は、ステージ2 (タイムアタック) の上位から8チームごと3組に分かれて20周のスプリントレースに臨みました。グリッドスタートにより制限時間20分間での周回数を優先するレースで、燃費とタイムのバランスが重要となります。周回不足は1周ごとに16ポイントが減算されるため、燃費を気にしてゆっくり走れば順位に大きく影響します。

このステージから各車両に無線機が配布され、管制からの周回数や残り時間、コース状況、各車両のラップタイムなどの情報を常時確認しながら走行しました。

また、助手席にはナビゲータが同乗し、運転に集中するドライバーに前後車両の状況やピットクルーのサイン情報などを伝えながら、ラリースタイルでの走行を楽しんでいました。

当ステージで1位を獲得したのは、トータルタイム14分33秒368 (20周) をマークしたインサイトで参加のMAX RACING (#81) チームでした。

(参考: 最下位のトータルタイムは20分33秒172 / 19周)



スプリントレーススタートを待つ各チーム

7. 昼食~レース前ミーティング

ステージ4を終えた参加者は緊張感もほぐれ、一時の休息を取っていました。中にはレーシングドライバーにドライビングテクニックに関するレクチャーを受ける参加者もあり、とても和やかな雰囲気でした。

昼食後、最終レースとなるステージ5に関する事前ミーティングに参加しました。グリッドスタートとなるレース内容や安全上の注意点、緊急時の対処方法などを改めて確認しました。

8 . ステージ5 (35 分間耐久レース)

最終レースとなるステージ5は、グリッドスタートによる35分間の耐久レースで、規定時間内にどれだけの高周回数を刻めるかが勝負となります。最低規定周回数35周と2度のピットイン(ドライバー交代)が義務付けられており、ドライブテクニックとピットワーク、エコラン技術を盛込んだ総合力を競うステージとも言えます。

規定の35周に満たない場合はステージ4同様、1周ごとに16ポイントが減算されます。従って、各チームとも35周以上を基準にしながらも、燃費に係わるポイントがタイムや周回数を競うポイントを大きく上回るため、燃費ポイントを最優先してゆっくり走るのか、当ステージの順位にも配慮してそれなりに速く走るといった駆け引きが試されます。

ステージ2(タイムアタック)の上位から8チームごと3組に分かれてレースを実施しましたが、8台中何台かは燃費を優先し、ゆっくり走行するチームが見られました。

当ステージで1位を獲得したのは、46周を走破したE X Pクラス ホンダCR-Zで参加の**テクニカ ワーク 制動屋 セナルト (#77)**チームでした。(参考:最下位は周回数33周)



テクニカ ワーク 制動屋 セナルト CR-Z



team MBM / YURA STYLE プリウス

9 . ステージ6 (満タン給油)

全てのレースセクションを終えた各チームは、再度、規定ルートを通って西ゲートの給油所で満タン給油を実施しました。1回目の満タン給油から、スプリントレース、耐久レース、給油所との往復で消費した燃料がどの程度だったのかがここで判明します。

参加者は緊張の面持ちでガソリン計量機を凝視している姿が印象的でした。給油を終えた参加者は、自分の車両の燃料消費量を確認しつつ、複雑な表情で会場であるショートサーキットへ、表彰式に向け戻って行きました。

10 . 表彰式 (結果発表)

大会事務局が慎重に集計作業を進める中、本大会に参加したレーシングドライバーから感想等を披露いただきました。

まず、最初に本大会でも競技ルールの設定等でアドバイスいただいた由良拓也氏は、「**わずか5%程度の燃料で1日遊べるモータースポーツはなかなかありません。今後も普及に向けて努力したいと思います。**」とコメント。



表彰式風景 (手前は全チームへの表彰トロフィー)



表彰式でコメントする由良拓也氏 (後方は黒澤琢也氏)

また、プライベートで参加したレーシングドライバーからもコメントをいただきました。
ケースバックモータースポーツチーム(#17)で参加した黒澤琢也氏は、「プロからアマチュア、老若男女、様々な方が一緒に楽しめるイベントでした。まだ工夫の余地はありますが、今回参加した皆さんと一緒にこのイベントを作り上げていければいいと思います。」とコメント。
黒澤氏とペアを組んだ折目遼選手は、「いろいろ試しながら走ってみたがとても楽しかった。今回試したことを整理して、より良いクルマ作りに役立てたいと思います。」とコメント。

a p r チーム(#31)で参加した新田守男選手からは、「レースに携わる者としてどんなエコ運転ができるのか試すために参加したのに作戦が失敗しました。今回試した基準をベースに次回に繋げたいです。」と結果発表前に敗北宣言のようなコメントがありました。

新田選手とペアを組んだ嵯峨宏紀選手は、「プリウスでレースをすることはないのでとても勉強になりました。一般の方と一緒にレースを楽しめたのも良かったです。」とコメント。

その後、最終結果が発表され、ノーマルクラスで優勝したのは、現行プリウスで参加したTeam ECO TORA (#22)で、ステージ1 = 20位(1ポイント)、同2 = 9位(12ポイント)、同4 = 10位(15ポイント)、同5 = 9位(32ポイント)、同6 = 5位(80ポイント)、ペナルティによる減点はなくトータル140ポイントでした。

勝因を尋ねられたチームの代表者は、「速いチームと遅いチームとが分かれていたので、燃費を意識しながらも遅いチームより少し速いペースで、なるべく距離を短くするようライン取りに気をつけて走りました。あとは秘密です！」とまさかの優勝に驚いていました。

また、EXPクラスで優勝したのは、2代目プリウスで参加した由良拓也氏が代表を務めるteam MBM/YURA STYLE (#2)で、ステージ1 = 17位(2ポイント)、同2 = 13位(8ポイント)、同4 = 22位(3ポイント)、同5 = 17位(16ポイント)、同6 = 1位(96ポイント)、ペナルティによる減点はなくトータル125ポイントでした。

勝因を尋ねられた由良氏は、「燃費に尽きます。運も良かったです。ノロノロ走って他チームにご迷惑をおかけしましたが、燃費にかけてましたのでご容赦ください。」と恐縮しながらコメントしていました。



ノーマルクラス優勝のTeam ECO TORAのメンバー



EXPクラス優勝のteam MBM/YURA STYLEのメンバー

当社代表取締役社長の加藤裕明は、「数年前から暖めていた構想がやっと実現できました。単なる燃費競争ではなく、サーキットが主催するからには、走る楽しさも加味したイベントにしたかった。まだ1回目ですから、いろいろ改善点もあるかと思いますが、ご参加いただいたお客様からのご意見も踏まえ、より良い大会にしていきたいと思います。できれば、第2回目を今年の11月頃に同じショートコースで開催し、来年2~3月頃にレーシングコースで第3回目を開催したいと思っています。」とコメントしました。

なお、各ステージごとの詳細結果は公式サイト (<http://www.japan-racing.jp/fsw/>) に掲載されています。

【お問い合わせ】富士スピードウェイ株式会社 東京営業部 広報・総括課

TEL:03-3556-8511 FAX:03-3556-8518 E-MAIL:press@fujispeedway.co.jp